

MIDV

BUSINESS REPORT



2017年12月期
事業報告書 Vol.4

(2017年1月1日～2017年12月31日)



東証一部
証券コード：3902

MDVの想い

2003年8月、あるマンションの地下室でMDVは創業されました。

岩崎(現 代表取締役社長)と浅見(現 専務取締役)、たった2人での船出です。

「僕は、患者や生活者のために、もっと医療情報を有効活用したほうがいいと思う。

そんな環境が今後必ず必要になってくる。

それに、自分のカルテ情報は自分自身で管理するべきでしょう。

自分自身の体のことが自分の手元に無いなんて、おかしいと思いませんか。

浅見さん、医療業界の常識を変えるような会社を一緒に作りましょうよ」

岩崎が浅見に語った想いは、今、MDVグループ社員全員に脈々と受け継がれています。

医療データの活用によって患者メリットを創出する。

患者が自分の医療・健康情報を

自身で管理・閲覧できる社会を創る。

私たちはこの実現に向かい、日々邁進しています。



代表取締役社長
岩崎 博之



メディカル・データ・ビジョン株式会社

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル10階

TEL : 03-5283-6911 FAX : 03-5283-6811

会社概要

(2017年3月28日現在)

会社名	メディカル・データ・ビジョン株式会社	代表取締役社長	岩崎 博之
証券コード	3902	専務取締役	浅見 修二
設立	2003年8月	取締役	柳澤 卓二
資本金	9億8,115万6,800円(2017年12月末現在)	取締役	木村 右子
本社所在地	東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル10階	取締役	井上 太郎
事業内容	医療情報統合システムの開発、製作、販売、保守業務 各種医療データの分析、調査、コンサルティング業務 医療機関向け経営コンサルティング業務 各種医療データの運用及び提供サービス業務 ポータルサイトの企画、設計、開発、運営 職業安定法に基づく有料職業紹介事業(13-ユ-302515)等	役員	取締役 取締役(社外) 取締役(社外) 取締役(社外) 常勤監査役(社外) 監査役 監査役(社外)
従業員数	212名(連結 2017年12月末現在)		中村 正樹 山川 直也 香月 壯一 加藤 伸宏 松本 保範 中川 治 濱田 清仁

Contents

MDVの想い	01
会社概要	02
2017年12月期の業績の進捗について	
Question 2017年12月期の業績について全体像をお聞かせください	03
Question 今期、注力したことは何ですか	05
Question 「CADA-BOX」の進捗状況はいかがですか	07
Question 来期の計画についてお聞かせください	09
株式情報	10

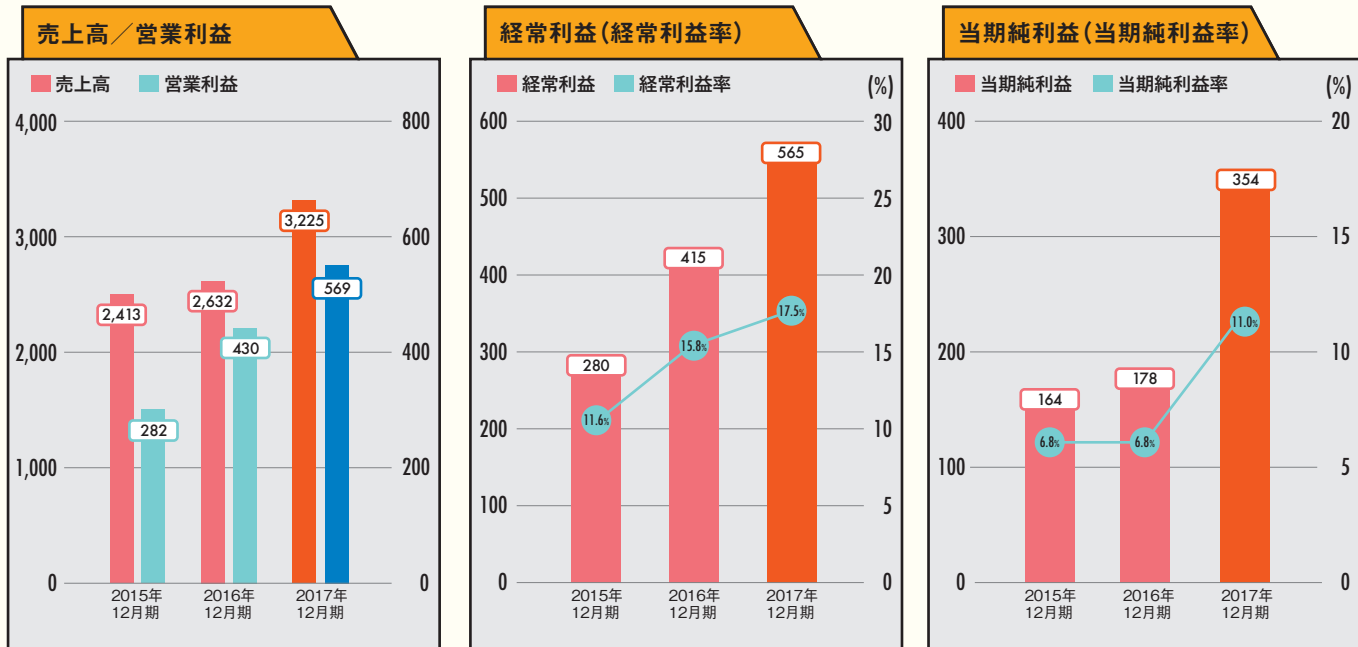
Question

2017年12月期の業績について全体像をお聞かせください

今期の連結業績は、売上高3,225百万円（前年同期比122.5%）、経常利益565百万円（前年同期136.0%）、親会社株主に帰属する当期純利益354百万円（前年同期比199.0%）で、5期連続の増収増益となりました。増収増益の大きな要因としては、収益率の高いデータ活用サービスの中でも、特にアドホック調査サービスが大きく成長したことによります。これは、

プロモーションツールを活用した新規顧客開拓や営業活動の効率化により、製薬会社や保険会社を対象としたアドホック調査サービスの受注件数が増大したことが要因です。アドホック調査サービスは、今後も継続的な成長が見込める領域です。2017年6月には、新事業となる治験サービスの本格展開を見据え、治験会社である株式会社コスメックスを2017年6月に子会社化

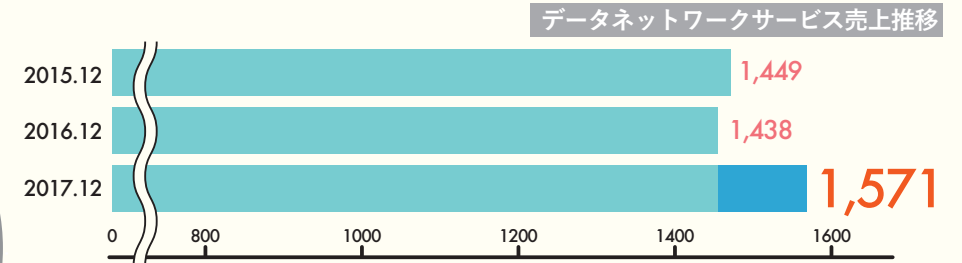
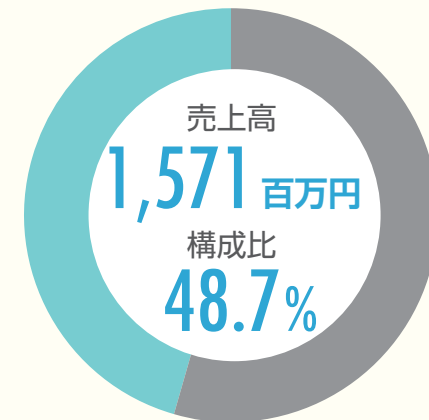
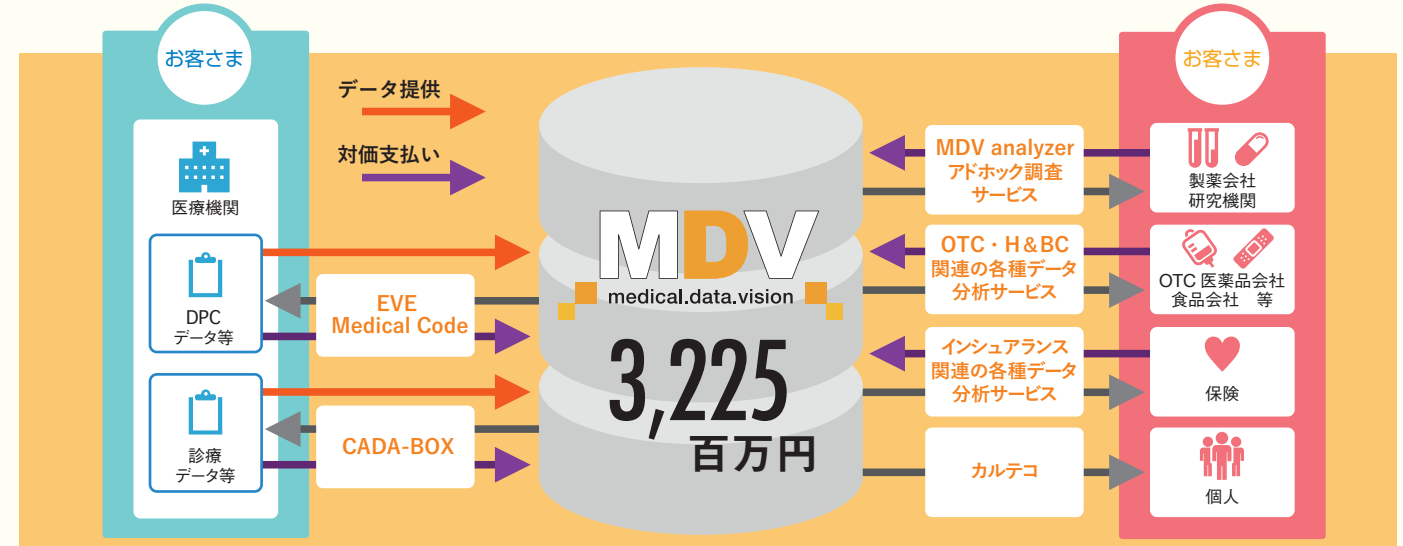
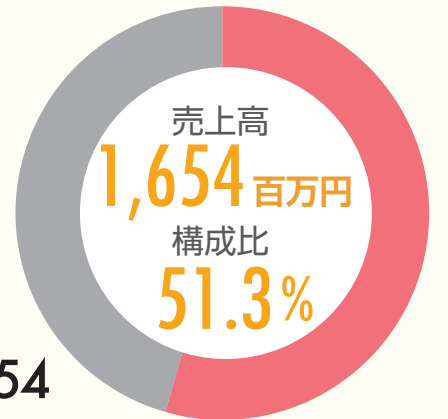
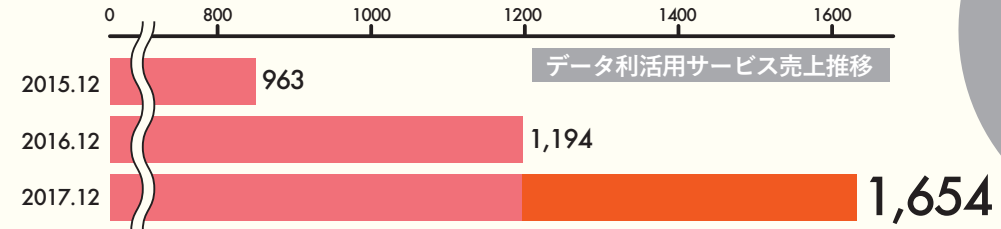
するなど、次の拡大に向けた各種準備も順調に進捗しております。また、データネットワークサービスのうち、病院向け経営支援システム「Medical Code」の導入が224病院（2016年12月現在）から265病院（2017年12月現在）へと順調に伸張しております。



(単位：百万円)

データ活用サービス

蓄積した医療・健康情報を活用し、各種分析サービスを提供



システム提供を通じて医療・健康情報を蓄積

データネットワークサービス

Question

今期、注力したことは何ですか

もちろん「CADA-BOX」です。「CADA-BOX」は、当社の理念実現と飛躍的拡大を握る“核”です。私たちは創業時から、生活者メリット創出のための医療データ利活用を目指しています。「CADA-BOX」には、大きく2つの社会的意義があります。1つ目は、「CADA-BOX」に付帯され

た生活者向けの無料サービス「カルテコ」を通じて、生活者自身が自分の診療情報の一部（≒カルテ情報）を管理・閲覧できることです。2つ目は、「CADA-BOX」を通じて集積した様々な医療データを活用することで、より一層の医療の質向上に寄与できることです。ビジネス的な視点に立つ

と、“医療データを持つ者”たる当社は、2025年には8,000億円以上になるとされる医療ビッグデータ市場の大きな部分を占める可能性があります。2020年前後を目処に、「CADA-BOX」を最低でも344の病院に導入し、当社の理念実現と飛躍的拡大につなげたいと考えています。

CADA BOX

344病院への導入計画

- ① 診療情報をいつでも確認可能
- ② 会計のための待ち時間を節約
- ③ 急な出費への不安払拭

医療従事者と患者の信頼関係構築

- ① 患者の積極的な治療関与
- ② 会計業務の軽減や人件費の削減
- ③ 未収金対策



医療ビッグデータ市場の獲得へ

344病院への導入

さらなる医療の質向上へ

2025年医療ビッグデータ市場 約 **8,000** 億円

※株式会社富士経済「2016年医療ITのシームレス化・クラウド化と医療ビッグデータビジネスの将来展望 No.2 医療ビッグデータビジネス編」を参考に当社が独自に作成。

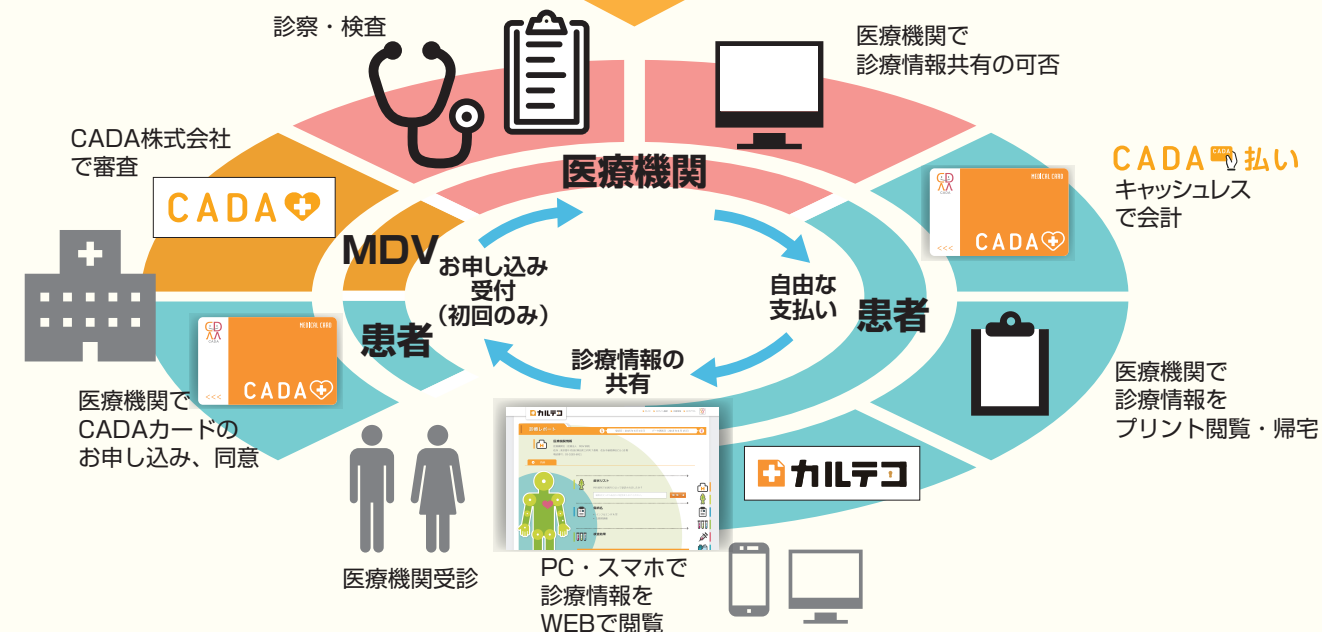
「CADA-BOX」って何？

「CADA-BOX」は、病院にある電子カルテに接続する病院向けの仕組みです。「CADA-BOX」が導入されている病院を受診すると、患者の皆さまは、「カルテコ」という無料のWEBサイト上で、病名・処方薬・検査結果・受けた処置手術の名称・CTやMR画像などを管理・閲覧できます。



2017年12月からは、検査画像等の医用画像も管理・閲覧できるようになりました。

「CADA-BOX」を導入した病院での利用の流れ



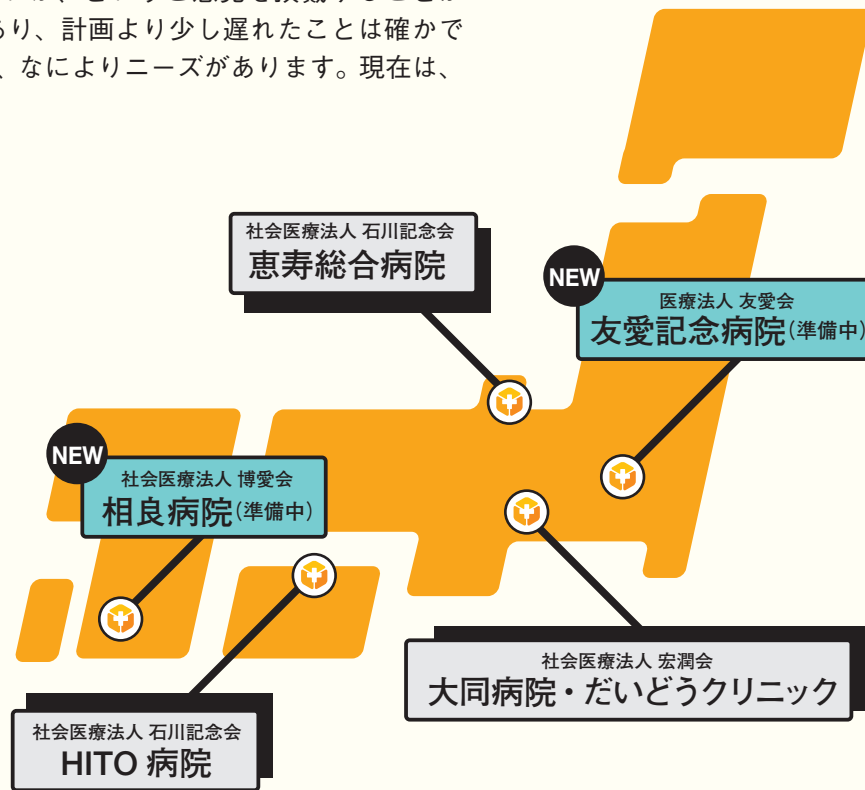
Question

「CADA-BOX」の進捗状況はいかがですか

3病院で稼働中、2病院で稼働準備中です（2017年12月末現在）。現在も複数の病院と導入に向けて交渉中です。

「CADA-BOX」の進捗が遅いのではないかと、というご意見を頂戴することがあります。導入後の病院内の事情もあり、計画より少し遅れたことは確かです。しかし、確実に進捗していますし、なによりニーズがあります。現在は、すでに導入いただいた3病院における実績をインタビュー動画にまとめ、営業活動に活用しているところです。12月には、9月に稼働開始した恵寿総合病院の神野理事長に、「CADA-BOX」のスペシャルアドバイザーに就任いただきました。神野氏を筆頭に、我々の理念に共感してくださる方々が「CADA-BOX」に対して大きな期待を寄せ、学会や講演、マスメディアの前で積極的に紹介して下さっていることは、本当に心強いことです。

「CADA-BOX」の企画面でお話しますと、12月に「カルテコ」上で、CTやMRIをはじめとする各種診療・医用データを管理・閲覧できるサービスを開始いたしました。患者の皆さまに有益なのはもちろん、医用画像を集積することで様々なビジネスも展開できます。



「CADA-BOX」導入病院

Interview

「CADA-BOX」スペシャルアドバイザー 恵寿総合病院 神野理事長にインタビュー



社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院 理事長

神野 正博

Kanno Masahiro

専門は消化器外科。金沢大学第二外科助手などを経て、92年に恵寿総合病院に外科部長に着任。93年に院長、95年に医療法人董仙会理事長に就任。全日本病院協会副会長、日本社会医療法人協議会副会長、中央社会保険医療協議会入院医療等の調査・評価分科会委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部日本版CCRC構想有識者会議委員などを務める。

Q 「CADA-BOX」を導入した経緯を教えてください

当院は、「“生きる”をデザインしよう」をスローガンに、「パーソナルヘルスレコード（PHR）」を推進しています。これまで、医療が患者さんと関わるのは、病院に来たときから治ったときまででした。ところが今は、高齢社会を背景として、予防や自宅での生活の段階から医療との関わりが出てきました。病院としては、“命”や“生存”だけでなく、“生活”や“人生”といったところにまで関係していく必要が生じてきたのです。こうなりますと、病院が持っている患者さんのデータだけでは不完全で、個人に生涯の医療や健康の情報を集約し（PHR）、病院はそれを利用させていただくというのが理想的です。「CADA-BOX」は、まさに自分達が目指す社会を後押しするための意義ある仕組みであると感じ、導入を決定しました。

Q 患者さんが自分の診療情報を持つメリットはどのようにお考えですか

例えば、体重を減らす一番の方法は、ダイエットではなく毎日体重計に乗ることでしょう。食べ過ぎたと感じて気を付けるのと同じように、「カルテコ」を使って患者さんご自身が自分のデータをみることで、疑問点が出てくれば次の受診の際に医師に相談することもできますし、治療のモチベーションの種になります。患者さんも自ら考えて、チャレンジして、自分を良くしていく、まさに参加型医療です。信頼できる人や家族にみせて情報を共有することも可能ですし、患者さんにとってより良い医療の道具になると思います。

Question

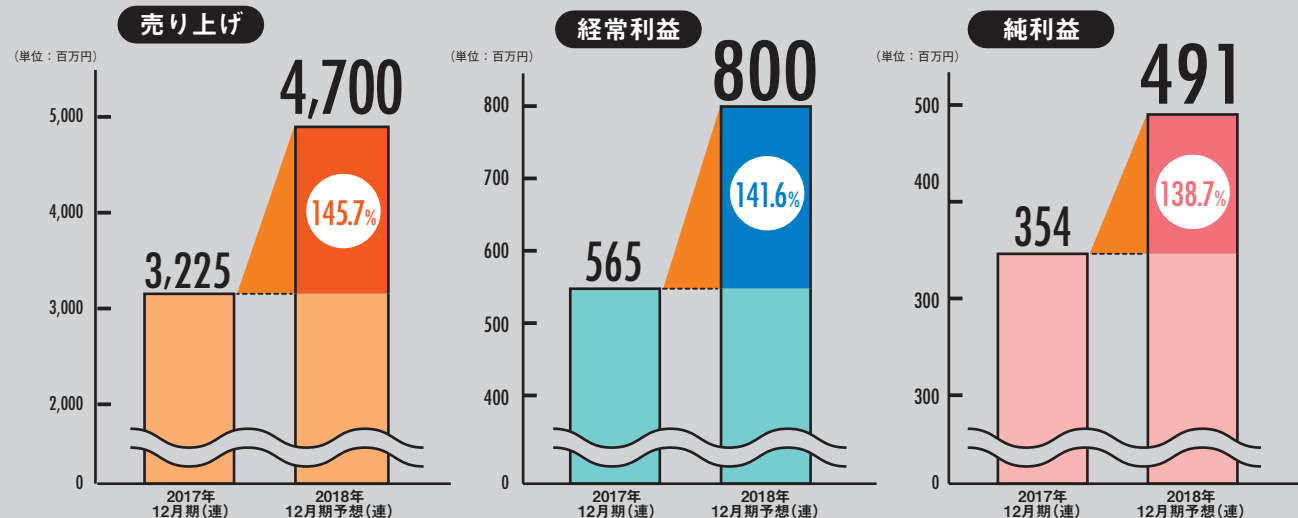
来期の計画についてお聞かせください

2018年12月期は、売上高4,700百万円（前年同期比145.7%）、経常利益800百万円（前年同期比141.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益491百万円を目指します。
注力するのは引き続き「CACA-BOX」で、導入病院数の増加はもちろんのこと、企画にも力を入れていきます。新規導入病院数は24病院とし、これを完遂するための体制作りも完了しています。企画は、M&Aも視野に入れた業務提携を活用して進めていきます。その第一弾

として、2018年1月に提携を発表したマーン社と連携し、健診・検診データの取得していく計画です。さらに、キーオピニオンリーダーをネットワークするDoctorbook社（2017年1月子会社化）とも連携し、健診・検診データを活用した患者向けのセカンドオピニオンサイトもオープンする予定です。
データ活用サービスについては、コスメックス社の現場ノウハウを活用した、治験事業の本格展開を中心の1つとして進めていきます。将来的には「CADA-BOX」

で集積した診療データベースを活用していきますが、まずは、すでに保有しているデータベースから、治験に参加可能な条件下にある患者がどれくらいいるかを調査するサービスの提供を予定しています。現在、治験に参加してもらえる患者は、費用と時間をかけた人海戦術で探しています。我々が提供予定のサービスは、人・お金・時間を大幅に削減できますから、多くの企業が利用することになるでしょう。

2018年12月期の業績見通し



Stock Information

株式情報 (2017年12月31日現在)

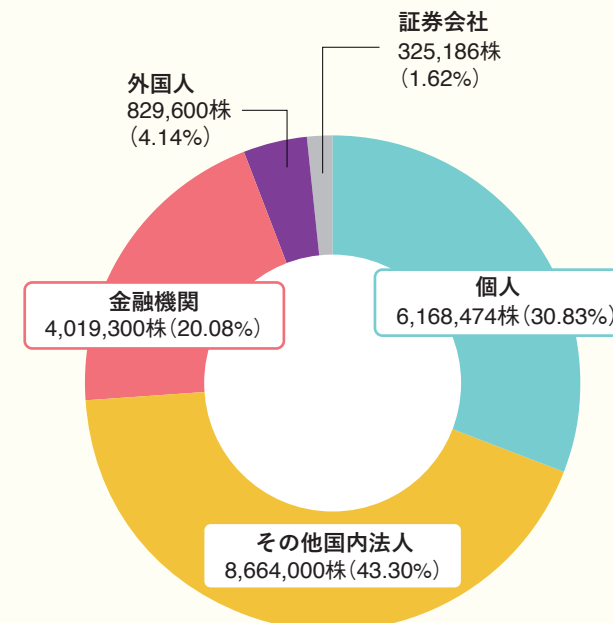
株式の状況

発行済株式の総数	20,007,200株
株主総数	5,734名

大株主の状況

株主名	所有株式数の割合
富士フィルム株式会社	28.22%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9.82%
株式会社メディopalホールディングス	8.02%
鈴木 隆啓	3.92%
三菱商事株式会社	3.19%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3.04%
岩崎 博之	2.73%
山口 貴弘	2.62%
シミックホールディングス株式会社	2.39%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2.01%

所有者別株式分布状況



※円グラフの数値は小数点以下第3位を切り捨てているため合計が100%にならない場合があります。

株主メモ

事業年度	毎年1月1日～12月31日	株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年3月開催	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	12月31日 （そのほか必要がある場合は 予め公告いたします）	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
期末配当金受領 株主確定日	12月31日 （なお、中間配当を実施する場合の 株主確定日は6月30日）	電話照会先 受付時間	0120-782-031（フリーダイヤル） 土・日・祝日を除く9:00～17:00
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部	ホームページ URL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
単元株式数	100株		
公告方式	電子公告により行います。 URL : http://www.mdv.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。		

